

ながぬま温泉

国民保養温泉地計画書

平成29年9月

環境省

-目次-

1. 温泉地の概要	1
2. 計画の基本方針	2
3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策	2
4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置 計画又は入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等	4
5. 温泉資源の保護に関する取組方針	4
6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策	5
7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策	6
8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画	8
9. 災害防止対策に係る計画及び措置	8

添付

- ・ながぬま温泉位置図
- ・ながぬま温泉区域図

1. 温泉地の概要



ながぬま温泉は、昭和58年から2ヶ年にわたる地質調査や電気探査により地熱水の賦存を確認し、ボーリングの結果、地下1,500mより天然ガスを伴った温泉が自噴するに至ったものである。

既存の馬追コミュニティセンターに温泉を引き、平成元年に宿泊施設と休憩所を増築、その後に温泉施設の増築、オートキャンプ場や温泉熱利用の温室・運動施設・融雪溝を整備した。

中でも、隣接する「マオイオートランド」は日本オートキャンプ協会から4つ星認定を受けた全国でも有数のキャンプ場として道内でも屈指の人気を誇る。

この温泉地がある長沼町は、北海道のほぼ中央部の石狩平野の南端に位置し、東は馬追山系を隔てて由仁町、栗山町に、北西は夕張川、旧夕張川を境として岩見沢市、南幌町に接し、南は千歳川を境に千歳市、恵庭市、北広島市に接している。

町の西80%が平野部、東20%は山地丘陵部であり、平野部標高は10m前後である。一方、山地丘陵は馬追山系が中心で、標高294.2mを最高に緩やかな傾斜が続いている。横断的地勢は、馬追山頂から約1km間急峻であるが、次第に緩やかな傾斜になり、地域一帯は標高40mから20mの海成段丘をなしている。

この温泉地の面積は、約2.2km²で役場所在地の市街中央部より東方2.5kmの位置にあり、北海道庁所在地である札幌市からは34kmの近距離にある。

また、石狩平野を見下ろす小高い台地にあるため、馬追山頂からは天候が良けれ

ば日本海までを眺望することができる。

本地域は、緩やかな丘陵地帯の中で田畑・牧場・山林がつくりだす広大な景観を楽しむことができ、保養地としての条件を備えているといえる。

2. 計画の基本方針

ながぬま温泉は北海道でも屈指の湯量を誇り、加水・加温はせずに100%源泉掛け流しで、保温効果が高く湯冷めしにくい塩化物泉であり、「熱の湯」とも呼ばれ、保養や療養を目的として多くの方が訪れている。

今後、以下の考え方を基本として、本町の特色を活かした体験と滞在型保養温泉地とした温泉地を目指していく。

- (1) 泉源を保護し、限りある資源の有効かつ適正な運用をし、公共の福祉増進を図る。
- (2) 自然環境の保護を図るとともに、地域に調和した温泉利用施設を維持整備し、豊かさとふれあいのある保養の場とする。
- (3) この地域を健全で大衆的な保健・保養の場とするよう、国民の各年代層に適合し、四季を通じて有効に利用できる公共施設の維持整備を図る。
- (4) 衛生思想を一層普及するなど環境衛生をさらに向上させ、快適な保養地の確立に努める。
- (5) 本温泉地が国民保養温泉地として適当なる現状を維持し、さらに健全なる施設を整備することにより歓楽地化することを防止する。

3. 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の維持・保全等に関する方策

- (1) 自然環境、まちなみ、歴史、風土、文化等の概要

ながぬま温泉が整備されている「ながぬまコミュニティ公園」は、馬追丘陵の緩傾斜地の中腹、役場がある市街地から2.5kmの所に位置しており、町の自然・

歴史とのかかわり、町に存在する芸術や文化などの町の個性を活かし、かつ、都市との交流活動の拠点施設として活用できる「長沼町の顔」としての公園と位置付けている。

この公園のテーマは、日常生活をサポートする保養の場、自然とふれあいの場、コミュニティを形成し情報交換を行なう場、文化・芸術の交流拠点となることを目的にしている。

ながぬま温泉設置の経緯は、昭和47年、航空自衛隊長沼分屯基地設置による国有保安林解除に伴う洪水調節及び農業用ダムが設置されたことに始まり、その管理経費の代替施設として、公民館並びに農業研修所である、「馬追コミュニティセンター」が開設されたのが「ながぬま温泉」の前進となっている。

(2) 取組の現状

ながぬま温泉は、昭和63年に国民保養温泉地の指定を受け、周辺施設の充実を図るため、パークゴルフ場やマオイオートランド等の整備を行なってきた。

本町の観光レクリエーション施設は、ながぬま温泉はもちろん、ながぬまコミュニティ公園、マオイオートランドを核として、ハイジ牧場、ファームレストラン、マオイゴルフリゾート、長沼スキー場、各地区パークゴルフ場、道の駅、馬追自然の森遊歩道等の整備が進み、町民の利用に加え、札幌市を始めとする近隣市町村からの入り込み客も増えている。

長沼町の観光・レクリエーションの特徴は基幹産業の農業とその生産活動の場である農村をベースにしており、近年では、グリーンツーリズム事業による、修学旅行生の農業体験の受け入れや町内各所にある農産物直売所が町内外から好評である。

(3) 今後の取組方策

本町は、北海道の石狩平野に位置する有数の農業地帯であり、米、小麦や野菜

など多品種が生産され、国内でも有数の農産物供給基地となっているが、特に大豆は、出荷量日本一を誇っているにも関わらず、北海道内でも“大豆は十勝”のイメージが強く、本町が出荷量日本一という事実は知られていない。

そこで新たな取り組みとして、温泉の指定管理を受諾している民間企業と共同で長沼産大豆と温泉水を使ったブランド豆腐や豆腐関連製品を開発し、この商品を活用したメニューの提供や豆腐づくり体験などを温泉利用者に提供することで、“大豆の町ながぬま”を確立し、「食」も絡めた滞在型の保養温泉地を目指す。

また、自然環境、まちなみ、歴史、風土及び文化等の維持保全を図るため、関係機関と調整の上、(2)の取り組みを継続する。

4. 医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導が可能な医師の配置計画 又は入浴方法等の指導ができる人材の配置計画若しくは育成方針等

(1) 医師又は人材の配置の状況

ながぬま温泉では、医学的立場から適正な温泉利用や健康管理について指導を行う人材を配置しており、その氏名等は以下のとおりである。

顧問医	氏名	倉 敏郎
	専門分野	内科（町立長沼病院長）
	活動内容	町立長沼病院において、温泉利用に関する相談に対応。
	配置年度	平成25年度

(2) 配置計画又は人材の配置の状況

ながぬま温泉では、(1)の医師の配置を継続する。

5. 温泉資源の保護に関する取組方針

(1) 温泉資源の状況

源泉	温度 (℃)	湧出量 (l/min)	泉質	湧出状況	所有者	利用施設
----	-----------	----------------	----	------	-----	------

ながぬま温泉	50.2	1,050	ナトリウム-塩化物 強塩温泉	自然湧出	長沼町	1施設
--------	------	-------	-------------------	------	-----	-----

(2) 取組の現状

ながぬま温泉における源泉について、現在講じているその保護に関する取組の状況は、以下のとおりである。

源泉	取組	実施主体	実施年度
ながぬま温泉	温度、湧出量、水位の現地観測を年 2回実施。	指定管理者	H27～

(3) 今後の取組方策

ながぬま温泉において、温泉資源の保護を一層推進するため、実施主体と調整の上、(2)の取組を継続する。

6. 温泉を衛生的に良好な状態に保つための方策

(1) 温泉の利用に当たっての関係設備等の状況

ながぬま温泉において温泉の利用に当たって使用している設備及び温泉利用の状況は、以下のとおりである。

①浴用利用のみ

温泉地	源泉数	浴用利用施設までの設備	浴用利用施設数
ながぬま温泉	1	引湯管と貯水槽	1

(2) 取組の現状

ながぬま温泉において温泉の利用に当たって使用している設備について、現在講じている衛生面での取組の状況は、以下のとおりである。

設 備	区 分	取 組	実施主体
源泉	自主的	地下水等が混入しないよう遮水対策を施工。一般細菌、大腸菌群等の検査を半年に1回実施。	指定管理者
引湯管	自主的	バルブ、ドレン等の点検を不定期に実施。	指定管理者
貯湯槽	条例等	すべての貯水槽について、年に1回点検。清掃及び消毒を必要に応じ随時実施。	指定管理者
浴槽	条例等	〈浴槽水〉 すべての浴槽の浴槽水を毎日換水実施。 すべての浴槽の水質検査（レジオネラ菌）を半年に1回実施。 〈浴槽〉 すべての浴槽の清掃を毎日実施。	指定管理者
設備周辺	自主的	すべての設備周辺において、清掃を毎日実施。	指定管理者

(3) 今後の取組方策

ながぬま温泉において、さらに温泉を衛生的に良好に保つため、実施主体と調整の上、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

設備	区分	取 組	実施主体
引湯管	自主的	不定期に行っているバルブ、ドレン等の点検を年に1回程度の点検に変更。	指定管理者
貯湯槽	条例等	清掃及び消毒を点検時に実施に変更。	指定管理者
浴槽	条例等	すべての浴槽の水質検査を年3回実施に変更。	指定管理者

7. 温泉地の特性を活かした温泉の公共的利用増進に関する方策

(1) 温泉の公共的利用の状況

近年のながぬま温泉の利用者数は以下のとおり

①過去5年間の利用実績

区 分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
宿 泊	15,421	15,135	14,351	15,279	14,379
日帰り	217,725	217,445	205,831	204,186	202,433
計	233,146	232,580	220,182	219,465	216,812

②最近1年の月別利用実績（平成27年）

月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
利用人数	17,301	16,764	21,750	16,416	21,250	17,315
月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
利用人数	18,259	21,557	20,050	18,701	16,092	15,122

(2) 取組の現状

ながぬま温泉において、温泉の公共的利用の増進を図るため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

取 組	実施主体
ながぬま温泉パンフレットを作成し、観光客に対して配布を行い、ながぬま温泉を周知。	指定管理者
長沼町観光パンフレットへの掲載や町外イベントでのPRを実施。	長沼町 長沼町観光協会
長沼町健康づくり推進事業にて町民へ入浴料の助成を実施。	長沼町

(3) 今後の取組方策

ながぬま温泉において、さらに温泉の公共的利用の増進を図るため、環境の保全、環境配慮に努めながら、従来からの湯治湯としての機能に、新たに健康の回復、増進といった健康づくりの場としての機能を加え、それらを統合した温泉地を目指し、実施主体と調整の上、(2)の取組を継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

取 組	実施主体
ながぬま温泉を楽しみながら健康寿命を延ばすための取組 ・「健康講演会」の実施 ・温泉利用プログラムの開発	長沼町

8. 高齢者、障害者等に配慮したまちづくりに関する計画

(1) 公共の用に供する施設の状況

ながぬま温泉における公共の用に供する施設の状況は、以下のとおりである。

区 分	施 設
公有施設	町道、宿泊施設、物産館、公園、パークゴルフ場、オートキャンプ場、テニスコート

(2) 取組の現状

ながぬま温泉において、高齢者、障害者等に配慮したまちづくりのため、現在行っている取組の状況は、以下のとおりである。

区 分	施 設	取 組	実施主体
公有施設	道路	温泉地内の道路の修繕及び保守管理。	長沼町
	建築物	施設において、通路にスロープの整備、昇降機の設置。	

9. 災害防止対策に係る計画及び措置

(1) 温泉地の地勢及び災害の発生状況

ながぬま温泉地域は、標高40mから20mの台地にあり、過去地滑り・水害等の被害を被ったことはなく、周囲の自然林や農地も防災の役割を果たし、加えて地域内にある洪水調節及び灌漑用水のためのロックフィル型ダムによって消防用水利も確保でき、災害については十分に対応できている。

また、地下深くからの温泉採取については、周辺環境に影響を与えないよう十分配慮する。近年、長沼町では、平成26年9月12日の強い寒気の影響による集中豪雨により、道道や町道が冠水し、一部通行止めとなり、農業被害も多数あったが、幸い温泉地域での被害はなかった。

(2) 計画及び措置の現状

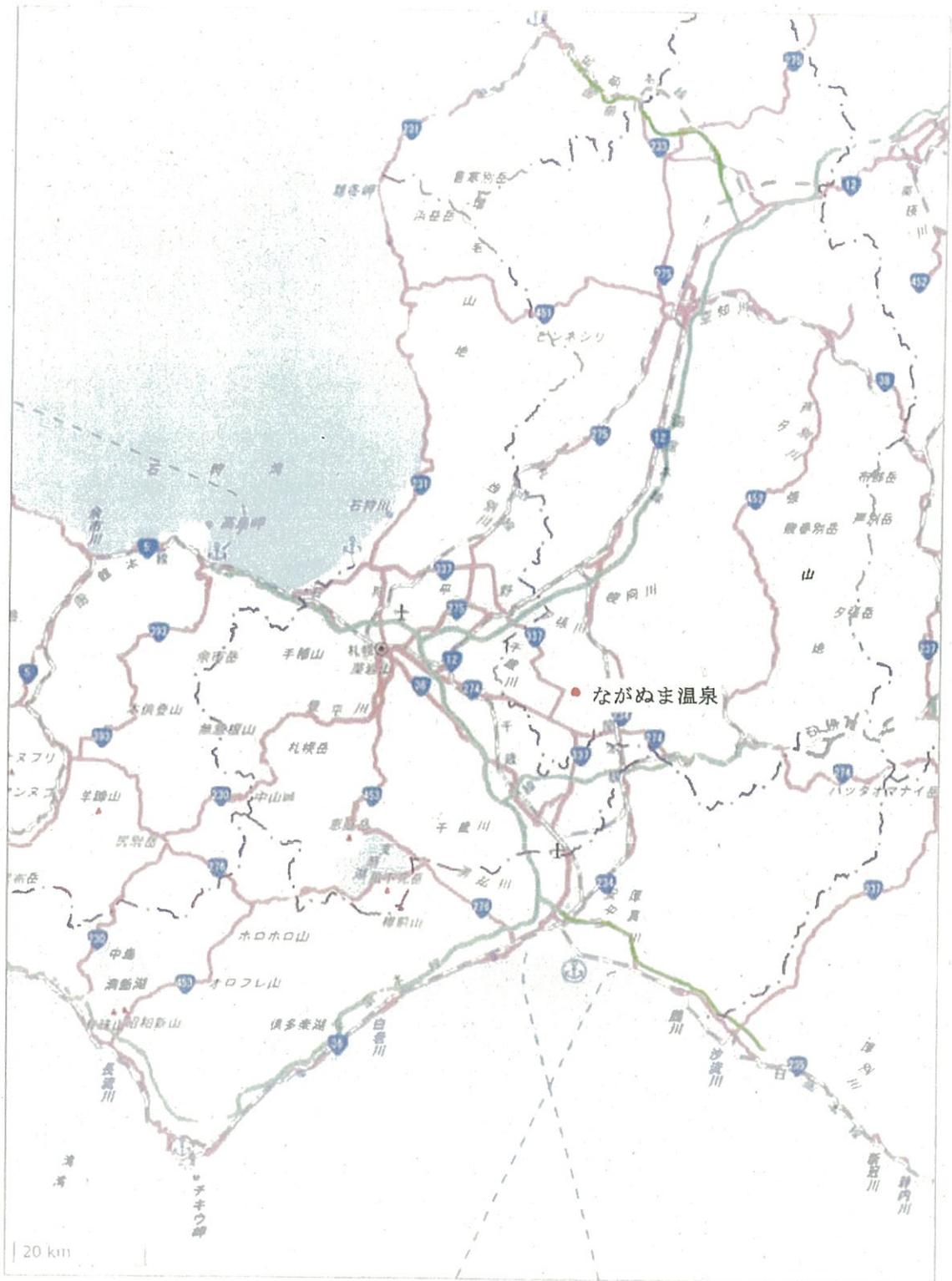
長沼町において、平成18年に策定された「長沼町地域防災計画」に基づき平成26年9月に策定された「避難勧告等のマニュアル（土砂災害編）」により、地震や大雨等の災害の際に町民や湯治客等に対しての避難勧告や指示方法、避難場所の指定をする防災計画を策定した。

(3) 今後の取組方策

ながぬま温泉地区において、さらに災害の防止を図るため、(2)の計画及び措置に基づく取り組みを継続するとともに、それらに加え、以下の取組を進める。

取 組	実施主体
日頃から隣近所とふれあい、防災訓練に参加、家庭で防災についての話し合い、高齢者等災害時要支援者に声をかけるなど地域防災体制の充実強化と防災意識の高揚を図るなどの啓発活動の実施。	長沼町

ながぬま温泉位置図



ながぬま温泉区域図

